

2021年3月6日かざぐるまデモ

Sayonara Nukes Berlin を代表して梶川ゆうの演説（ドイツ語からの和訳）

お集りの皆さん

今日ここに皆さんと一緒にフクシマ原発事故 10 周年を記念して集えることを喜びます。私たちには皆、この事故を追悼する義務があると思うからです。

皆さんはある日突然、自分のうちを、生業を、または故郷を失うというのがどういうことか、具体的に思い浮かべてみたことがありますか？ それも、自宅や町、仕事場が地震や津波で破壊されたからではなく、目に見えない放射線がやってきてそこに居ついたから、という理由で。実際このようにして約 17 万人の人々が故郷を捨て去ることを余儀なくされました。そしていつかは戻ってこれるのか、それはいつになるのか、いつになったら馴染んだ日常生活を取り戻すことができるのか、生業に復帰することができるのか、または親しんだ友人、仕事の仲間や隣人たちと一緒に寛ぐことができるようになるのか、そして何より、これまでの自分の人生を作り上げていたものすべてが元通りになることがあるのか、誰にもわからない、そのようなことがこのフクシマ原発事故後起こりました。このような想像を絶する悪夢が、これほどたくさんの人たちにとって現実となってしまったのです。

チェルノブイリの後、皆さんは思ったかもしれません。こんな事故はソ連だから起きたんだ！と。フクシマの後はこちらも考えたかもしれません。幸いここには大地震も津波も起こらない、と。でもこのような「安心」は単なる希望的観測に過ぎません。どうしてそんな確信ができるでしょうか？ 地震や津波がなくても、ヒューマンエラーが起こり得ます。古くなった装置や摩耗した部品でも同じように取り返しのつかない原子炉事故は起こり得ます。

この事故で被害を受けた人々を支援する代わりに、そして放射線による危険から彼らを保護する代わりに、日本政府は「おとぎ話」を広めることを選んでいました。それは「最悪原発事故はほぼ収束した」というものです。日本政府は人々の「不安」を解消しようとしています。しかし人々の健康調査を行ったり、土壌、水、空気の放射能汚染をきちんと計測するという方法で解消しようとしているわけではありません。大掛かりなキャンペーンでそれを行おうとしているのですが、そのキャンペーンの名は私を憤慨させてならないものです。何と「心の除染」というのです。彼らは、放射線ではなく、人々が持って当然な不安、不信、疑いこそが「汚染」であり、それを除染しなければいけないと言っ

ているのです。そのために行政は何の費用も惜しみません。日本の国民は自分たち自身に対する洗脳の費用を税金で払わされています。日本政府は影響力のある大きな広告代理店に数々の多額なプロジェクトを受注し、大掛かりな風評払拭の広告、疑わしいブリーフィングイベントやパンフレットの作製、学者の名を借りての操作的な研究結果と結論を宣伝して「大丈夫、心配ない、安全、安心」を広めています。

原発事故の被害はどんどん不可視化され、被害者は切り捨てられ、放射線防護は大幅に緩められていく中、原発事故の責任は誰も取らないまま、フクシマの「復興」はメディア効果よろしく猪突猛進で演出され、日本政府は東京オリンピックをそのために悪用することも憚っていません。

日本政府や国際原子力機関がいかにこの原発事故の被害や影響を過小評価しようと、事実がすべてを物語っています：被害を受けた地域では昔と同じ日常など戻ってはきません。圧力容器をメルトスルーして1～3号機の原子炉地下に散らばっている溶けた燃料棒デブリは約900トンと見積もられており、まだ放射線量があまりに高いため、誰も近寄ることも詳しく調査することもできない状態です。東電は2021年にこのデブリの取り出しを始めると言っていますが、どこにどのような状態であるかもわからない物をどうやって取り出すのでしょうか？ しかもそれをどの方法で、どこに持っていくのでしょうか？ 福島第一のサイトで1000台以上のタンクに保管されている、ALPS多核種除去設備で処理された後もトリチウムを始めとするその他の放射性核種で汚染されている水の量は、すでに120万トン以上に膨れ上がっています。日本政府は激しい反対の声が上がっているにもかかわらず、この汚染水を海に流したい意向です。

どのような世界に住みたいのか、それをどう頭に描くかは私たちの手にかかっています。人間的で、優しい、民主主義的な生命（住居）空間を作るために、そして原子力エネルギー、核兵器やそれらから出る放射性廃棄物の危険から世界を解放していくために、力を合わせて働きかけていこうではありませんか。そのためにはまだまだしなければならぬことがたくさんあります。私たちを導くものは次のフレーズです。ノー・モア・ヒロシマ、ノー・モア・ナガサキ、そしてノー・モア・フクシマ！